

## 令和6年度に実施した子ども条例に基づく施策の実施状況一覧

## (1) 子どもの権利について学ぶ機会の提供等

取組名	取組概要	対象	担当課
「三重県子ども条例」推進・啓発等の実施	子ども自身が子どもの権利について知ることができるよう「三重県子ども条例」の理念に基づき作成した「子どもの権利ワークシート」および「デジタル絵本」について、小中学校長会で周知し、授業で活用いただくよう依頼した。	子ども	子ども・福祉部 少子化対策課
こども会議の実施	当事者である子ども・若者の意見を広く聴取し、子ども条例の改正等に反映していくため、県内各地でこども会議を開催した。子どもの権利について学んでいただいたうえで、「子どもにとって大切なこと」、「子どもの権利が守られていないと思うこと」、「大人に期待すること」などのテーマで話し合っていたいただき、「三重県子ども条例」の改正、「ありのままみえっこプラン」の策定に反映した。 (実施回数：17グループ×2回、参加者数：225人)	子ども、 若者	子ども・福祉部 少子化対策課
「子どもの権利ノート」の配付	児童養護施設に入所する子どもに対し、施設での生活がどのようなものかなどを知り、一人ひとりが守られる存在であることを知ることができるように「子どもの権利ノート」を配付した。また、里親等に委託される子ども向けの「子どもの権利ノート」を配付した。	幼児・小学生～高校生	子ども・福祉部 児童相談支援課
移動人権啓発事業	商業施設等を利用してパネル展示、啓発物品の配布等を実施し、子どもの権利を含めた県民の人権意識高揚を図るための啓発を行った。 (実施回数：15回、参加者数：3,811人)	子ども、 大人	環境生活部 人権センター
三重県立図書館児童コーナー、ティーンズコーナー	子どもの知る権利の確保のため、児童書の新刊購入に努めるとともに、図書の閲覧、貸出、参考調査等のサービスの提供を行った。 ・児童等向け図書、雑誌購入(3,143冊) ・児童等向け図書、雑誌貸出冊数(個人貸出)(101,940冊)	子ども、 大人	環境生活部 図書館
「命の大切さを学ぶ教室」の開催	教育委員会等の関係機関と連携し、中学生・高校生等を対象に、犯罪被害者等が講演者となり、子どもを亡くした親の思いや生命の大切さ等を直接生徒に語りかける「命の大切さを学ぶ教室」を開催し、犯罪被害者等への配慮・協力意識の醸成や次世代を担う若者の規範意識の向上に努めた。 (開催回数：13回、受講者数：4,096人(うち中高生：3,828人))	中学生～大学生、 保護者および教員	警察本部 警務課

(2) 子どもが意見表明する機会の設定等

取組名	取組概要	対象	担当課
児童相談所におけるアドボカシー	平成30年度から、児童相談所職員等を対象に子どもアドボカシー・アドボケイトに関する研修を行い、「職員の支援が子どもの自尊感情や自信を高め、困難な課題を自分で解決できるという気持ちを持たせる」「子どもが言いたいことを言う機会を持ち、耳を傾け、子どもの権利を保障する」といったアドボカシーの原則等を学んでいる。 加えて、令和4年度からは一時保護所に入所中の児童および一部の児童養護施設等に入所中の児童を対象として、アドボケイト派遣に取り組んでおり、令和6年度も引き続き、権利についてのワークショップやアドボケイトの紹介、希望する子どもへの個別面談や意見表明の支援など、子どもの要望に応じた支援に取り組んだ。	～高校生	子ども・福祉部 児童相談支援課
キッズ・モニターアンケートの実施	県のさまざまな施策に対する子どもの意見を集めるため、子どもを対象にインターネットを用いた電子アンケートに回答していただく「キッズ・モニターアンケート」を実施した。(実施回数：8回) (テーマ) ①手話について(子ども・福祉部) ②食の安全・安心について(農林水産部) ③子どもの意識と生活について(子ども・福祉部) ④ヤングケアラーについて(子ども・福祉部) ⑤建設業のお仕事について(県土整備部) ⑥自転車の安全利用について(環境生活部) ⑦農林水産業と農林水産物について(農林水産部) ⑧三重県産米について(農林水産部)	小学4年生～高校生	子ども・福祉部 子ども・福祉総務課
こども会議の実施(再掲)	当事者である子ども・若者の意見を広く聴取し、子ども条例の改正等に反映していくため、県内各地でこども会議を開催した。 子どもの権利について学んでいただいたうえで、「子どもにとって大切なこと」、「子どもの権利が守られていないと思うこと」、「大人に期待すること」などのテーマで話し合っていたいただき、「三重県子ども条例」の改正、「ありのままみえっこプラン」の策定に反映した。 (実施回数：17グループ×2回、参加者数：225人)	子ども、若者	子ども・福祉部 少子化対策課
「第16回ありがとうの一行詩コンクール」の実施	子どもから家族や友だちなどへ、大人から子どもへ、思ってはいるけれどもなかなかお互いに伝えられない大切な人への「ありがとう」の気持ちをテーマにした一行詩コンクールを実施した。 (募集期間：6/24～9/30) 令和6年度は、家族部門、友だち部門、地域部門にて作品を募集し、特に学校を通じた応募の呼びかけに取り組んだ結果、5,729作品の応募をいただいた。	子ども、大人	子ども・福祉部 少子化対策課
みえこどもの城における「オレンジポスト」の設置、集約	11月の児童虐待防止啓発月間の取組(オレンジリボンキャンペーン)の一環として、日頃の気持ちを手紙で伝えるため「オレンジポスト」を設置した。集まった手紙についてはこどもの城館内に掲示をするとともに、抜粋して動画を作成し、その動画を流し啓発を行った。 (みえこどもの城において、指定管理者事業として実施) (手紙集約数：203枚)	子ども、大人	子ども・福祉部 少子化対策課
中学生のメッセージ(少年の主張三重県大会)の実施	中学生が日頃感じていることや考えていることを広く発信するとともに、自分自身の生き方や社会との関わりを考える機会とするため「中学生のメッセージ2024」(少年の主張三重県大会事業)を実施した。主張は作文として募集、三重県大会の中で優秀作品14点の発表、審査を行うものであるが、台風接近の影響で大会の開催は中止となった。最優秀賞などの決定は作文の論旨評価とした。(応募数：9,215件) (公益財団法人三重こどもわかもの育成財団等との共催により実施)	中学生	子ども・福祉部 少子化対策課

取組名	取組概要	対象	担当課
明るい選挙啓発ポスターコンクール	選挙が明るく正しく行われるよう啓発用のポスターを募集し、県審査特選作品については中央審査（主催：（公財）明るい選挙推進協会、都道府県選挙管理委員会連合会等 後援：文部科学省、都道府県教育委員会）へ出品した。 （参加校数：県内12市町99校、参加者数：1,286人）	小学生～高校生	選挙管理委員会
人権メッセージの募集	県民一人ひとりが、差別をなくすために真剣に取り組み、人権啓発の主体者であることの意識付けにつながるよう人権メッセージを募集した。（取組件数：2,613件）	子ども、大人	環境生活部 人権センター
人権ポスターの募集	県内の小・中・高等学校等の児童・生徒が人権について考え、表現する機会としてポスターを募集した。優秀作品を用いた人権カレンダーの作成や巡回展示による啓発を行った。 （取組数：128校、20,702人）	子ども（小・中・高校生等）	環境生活部 人権センター
薬物乱用防止ポスターの募集	薬物乱用を許さない明るい社会づくりを推進するため、中学校、義務教育学校後期課程、中等教育学校、高等学校、特別支援学校中等部・高等部に在籍する生徒から薬物乱用防止の大切さを社会に訴えるポスターを募集し、入賞作品は県内で展示するとともに、県ホームページに掲載した。 （応募数：1,078点）	中学生～高校生	医療保健部 薬務課
地球温暖化防止啓発ポスターコンクール	県民の地球温暖化防止への関心、意識を高めることを目的として、小・中学生を対象にポスターコンクールを実施した。 （応募者：小・中学校82校、878人）	小学生 中学生	環境生活部 地球温暖化対策課
野生生物保護啓発ポスターコンクール	ポスター制作を通して野生生物についての保護意識を高めるとともに、県民への普及啓発を図ることを目的として、小学生から高校生を対象にポスターコンクールを実施した。 （応募数：小・中・高等学校 103校、1,156人）	小学生～高校生	農林水産部 みどり共生推進課
みえの森づくりポスターコンクール（国土緑化運動・育樹運動ポスター原画募集）	森林づくりや緑とのふれあい等を表現するポスター原画の制作を通じて、次代を担う子どもたちに森林や樹木の大切さを知ってもらうことを目的として、小学生から高校生を対象にポスターコンクールを実施した。 （応募数：小・中学校 43校、317人）	小学生～高校生	農林水産部 みどり共生推進課
全日本中学生水の作文コンクール	8月1日の「水の日」および8月1～7日の「水の週間」に合わせて、中学生が水について理解を深めるための取組の一環として「全日本中学生水の作文コンクール」を実施した。 （テーマ：「水について考える」、三重県応募総数：402作品）	中学生	地域連携・交通部 水資源・地域プロジェクト課
土砂災害防止に関する絵画・作文の募集	土砂災害の防止と被害の軽減を図るため、国と各都道府県では、毎年6月を「土砂災害防止月間」として、各種の活動を実施している。その活動の一環として、小・中学生を対象に絵画・作文を募集し、優秀な作品を表彰する取組により啓発に努めた。 （応募数：小・中学校7校、39件）	小学生 中学生	県土整備部 防災砂防課
河川・海岸愛護ポスターの募集	川と海の役割や大切さについて理解と関心を深めるため、国と各都道府県では、毎年7月を「河川・海岸愛護月間」として、各種の活動を実施している。その活動の一環として、小・中学生を対象にポスターを募集し、優秀な作品には三重県知事賞・三重県議会議長賞等の授与を行った。 （応募数：小・中学校23校、136件）	小学生 中学生	県土整備部 河川課 港湾・海岸課
国土と交通に関する図画コンクール	人びとの生き生きとした暮らしと、これを支える活力ある経済社会、日々の安全、美しい良好な環境等を実現するためのハード・ソフトの基盤形成への理解を深めてもらう活動として、国の取組に呼応し、小学生を対象に図画を募集し優秀な作品を表彰することにより啓発に努めた。 （応募数：県内5校、27件）	小学生	県土整備部 県土整備総務課

取組名	取組概要	対象	担当課
ビブリオバトル推進事業	ビブリオバトル（書評合戦）を活用した読書活動の推進（校内行事等への導入をはじめとした普及活動、ビブリオバトル大会の開催）により、中学生・高校生に日常的に自ら進んで読書に親しむきっかけをつくり、読書の楽しさや有益性を伝え、子どもの読書活動の推進を図った。（中学校大会参加数：9校13人、高校生地域大会および県大会参加数：延べ21校36人）	中学生 高校生	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
花育の取組（フラワー・ブローカー・コンクール）	中日新聞社と7県1市8教育委員会が主催となり、学校環境の美化と豊かな情操教育、花による地域の快適な環境づくりなどに役立てることを目的に、小・中学校、特別支援学校等を対象とした学校花壇コンクールを開催した。コンクールでは花壇づくりの審査のほか、花壇の設計や写生、花についての作文の審査を行った。県の審査の結果、参加校67校のうち、花壇づくりで10校、設計で2校、写生と作文で計6人が入賞し、11月14日の表彰式で表彰状や盾などを贈呈した。	小学生 中学生	農林水産部 農産園芸課 教育委員会事務局 小中学校教育課
「人権が尊重される三重」をつくるこどもサミット事業	子どもたちの「意見を表明する権利」や「参加する権利」を実現する機会として、異校種の子どもたちが各学校・地域で取り組んだ活動や人権が尊重される地域社会をつくるために考えたこと等を報告し、意見交流する「『人権が尊重される三重』をつくるこどもサミット」を開催した。 発表児童生徒：24名（小学生6名、中学生8名、高校生・青年等10名） 来場参観者：39名、オンライン視聴者：55名	小学生 中学生 高校生	教育委員会事務局 人権教育課

(3) 子どもが主体的に取り組むさまざまな活動の支援

取組名	取組概要	対象	担当課
人権まなびの発表会	学校で取り組んだ人権学習や人権に関する生徒の自主的な活動の成果を発表・交流する「人権まなびの発表会」を実施した。11校の生徒が参加し、5校の生徒が取組を発表した。後日、各校の発表を動画で配信し、希望する学校の生徒や教職員が視聴した。 ・実施日：10月26日 ・開催場所：三重県総合文化センター ・参加者数：89人（生徒および教育関係者） ・動画視聴期間：11月13日～2月14日 ・視聴者数：140人（11校）	高等学校・特別支援学校高等部の生徒および教育関係者	教育委員会事務局 人権教育課
高校生フェスティバル	「三重県立高等学校産業教育フェア」「みえ高文祭」「三重県高等学校定時制通信制生徒生活体験発表大会」「高校紹介ひろば」を実施し、高校生が日頃の学習や文化活動等の成果を情報発信した。 ・実施日：10月18日～20日、26日 ・開催場所：三重県総合文化センター、イオンモール津南 ・参加生徒延べ約3,200人、一般来場者延べ約56,700人	子ども、大人	教育委員会事務局 高校教育課
みえの地物が一番！朝食メニューコンクール	小学生（5・6年生）および中学生を対象に、子どもたち自身が地場産物を使用した朝食メニューを考え、調理するコンクールを実施した。この取組を通して、子どもたちが自らの食生活に関心を持ち、望ましい食習慣を身に付けるとともに、地場産物や生産者についての理解を深めた。 (参加総数：小学生の部 1,284人、中学生の部 2,604人、優秀賞各部5点)	小学校・中学校・特別支援学校の児童生徒	教育委員会事務局 保健体育課
三重県高等学校科学オリンピック大会	高校生が学校ごとのチームで、授業での学習をベースに生活に関連した課題に取り組むことにより、数学・理科・情報や科学技術に対する興味や関心を喚起するとともに、科学的な思考力・判断力・表現力等の育成を図った。 (10月20日開催 14校、14チーム 参加人数 102人)	高校1、2年生	教育委員会事務局 高校教育課
オンゴトチャレンジ ミエキッズ（子どもの会社見学）の実施	地域の子どもたちに貴重な学びや体験の機会を提供するため、みえ次世代育成応援ネットワークの会員企業において、会社見学（出前講座を含む。）の受入企業を募集した。県内の幼稚園・保育所・放課後児童クラブ等に対して見学の公募を行ったところ、18件のマッチングが成立し、会社見学を実施することができた。	子ども	子ども・福祉部 少子化対策課
三重県子どもの学び・体験イベント等開催支援事業の実施	地域の子どもたちの「学び」や「体験機会」を創出するため、地域の民間団体や企業等が複数で連携して各種のイベント等を開催し、地域の特性を活かした取組を継続できるよう支援する「三重県子どもの学び・体験イベント等開催支援補助金」を創設した。令和6年度は、2団体を採択し、イベント主催者に対して、イベント開催の準備段階から、開催に向けた支援を行った。	子ども	子ども・福祉部 少子化対策課
みえこどもの城の運営	大型児童館であるみえこどもの城において、児童の健康を増進し、情操を豊かにすることを目的に、児童に健全な遊びを提供した。 (運営は指定管理にて民間団体に委託) ・プレイランドの遊具やカブラ（積み木）の設置 ・芸術分野や科学分野の工作メニューや紹介動画の提供 ・クライミングウォールの実施 ・プラネタリウムの投影や全天周映像の上映 ・イベントホールでの体験型イベント 開館日数：287日（年間） 開館時間：9時30分～17時（冬期 9時30分～16時30分）	子ども、大人	子ども・福祉部 少子化対策課

取組名	取組概要	対象	担当課
みえこどもの城「子どもが主体的に取り組む活動＝キッズスタッフ」の実施	子ども自身がみえこどもの城のキッズスタッフとなってイベント等を企画し、準備、当日運営を行った。 イベント内容、準備、役割分担などを子どもたちが会議の中で決定し、イベント当日の運営などほとんどを子どもたちで行った。 (みえこどもの城において、指定管理者事業として実施) ・キッズスタッフ：22名 ・企画数：10企画 ・イベント参加者数：227人	子ども	子ども・福祉部 少子化対策課
みえこどもの城「キッズおしごと広場」の実施	みえこどもの城において、県内企業等の仕事体験イベントを実施した。 体験を通して、子どもたちがさまざまな仕事を知り、働くことの楽しさに触れる機会となった。 (みえこどもの城において、指定管理者事業として実施) ・実施日：4日(6・7月中・土日祝日) ・参加者：1,572人 ・協力企業・団体：30社(152人) ・学生ボランティア：69人	子ども	子ども・福祉部 少子化対策課
みえこどもの城「出張キッズおしごと広場」の実施	県内企業の協力のもと、みえこどもの城で開催する「キッズおしごと広場」を県内の児童館で実施した。みえこどもの城に来にくい子どもたちに向けて子どもたちがさまざまな仕事を知り、働くことの楽しさに触れる機会を提供した。 (みえこどもの城において、指定管理者事業として実施) ・実施日：1/11(土)、1/18(土)、3/8(土) ・参加者：146名 ・実施児童館：5館(うち3館合同) ・協力企業：3社	子ども	子ども・福祉部 少子化対策課
みえこどもの城「高校生☆プラネタリウムコンテスト」の実施	子どもたちの科学や天文、地球環境に関する興味関心を高めるとともに、高校生が考え、挑戦し、活躍する機会の提供の一環として、県内高校生を対象にプラネタリウム作品を募集し、みえこどもの城ドームシアターでの発表、審査により優秀作品を決定した。 優秀作品に選定された作品は、みえこどもの城の最新式プラネタリウム投影機を使って発表する。 (みえこどもの城において、指定管理者事業として実施) ・発表・審査：3月16日(日) 8作品 ・昨年度の優秀作品上映日：8月11日	高校生	子ども・福祉部 少子化対策課
みえこどもの城「サイエンスひろば」の実施	県内の中・高・大学生等が日頃学んでいる内容をもとに、展示、発表などを行うとともに、工作、体験の機会を小さい子どもたちに提供した。 子どもたちが実験やものづくり等の体験を通して科学に触れ、楽しさを知ることで、興味や関心を持ち、探求心を育む機会とした。 (みえこどもの城において、指定管理者事業として実施) ・実施日：2月22日・23日 ・参加人数：4260人 ・参加校・企業等：3校・4企業団体(65人)	子ども、 高校生	子ども・福祉部 少子化対策課
小学4年生のための星空★スクールinみえこどもの城プラネタリウム	小学4年生の理科学習の助けとなるよう、学習指導要領に則った、みえこどもの城オリジナルプラネタリウム学習番組をスタッフの生解説で提供した。 学校の授業を補完することにより、理科(天文分野)の苦手意識の緩和や理解度の向上を図り、主体的に学ぼうとする学習意欲を高める機会とした。 実施日：8月3日・17日 テーマ：「星と月」(3日)、「星と星座早見盤」(17日) 参加人数：214人	小学校4 ～6年生	子ども・福祉部 少子化対策課
発明くふう展	次代を担う子どもたちに、創作する喜びや発明・工夫することの楽しさを体感してもらい、その優れた発明くふう作品を顕彰することにより、創造性豊かな人格形成をめざすことを目的として、子どもたちの発明に関する作品130点(工作81点、絵画49点)を展示する「発明くふう展」を開催した。 ・開催日：10月5日、6日 ・開催場所：津リージョンプラザ3階展示室 ・参加人数：565人(観覧者)	小学生～ 高校生	雇用経済部 新産業振興課

取組名	取組概要	対象	担当課
Jr. ロボコン	県内の青少年を対象に、ものづくりの楽しさと科学技術のすばらしさを体験できる機会を提供する。今回は、「切り拓け～仲間とともに～」をテーマとし、活動中で起こる問題などの壁を仲間とともに協力し乗り越える力の育成も目的の一つとした。 ・開催日：2024年 7月20日（土）、8月20日（火）～8月22日（木） ・開催場所：三重大学教育学部技術棟、三重大学イベントホール ・参加人数：15人（小学5、6年並びに中学生）	小学校5～中学生	雇用経済部 新産業振興課
航空宇宙産業製造現場見学会	県内の航空宇宙産業における人材の確保に向けて、県内での就職先について知ってもらい、航空宇宙産業をはじめとするものづくり企業の魅力を発信するため、就職・進路選択の時期に近い高校生・高専生等を対象に、企業の製造現場を訪問して、見学・意見交換ができる機会を提供した。 ・開催日：2024年8月9日（金） ・開催場所：伊勢市、松阪市 ・参加人数：26人（生徒）	高校生	雇用経済部 新産業振興課
三重県環境学習情報センター	社会見学の受入れ、各種環境講座の実施等を通じて、環境保全に関する気づきや実践への機会を提供した。 ・見学視察、体験教室（学校関係101回、6,001人、一般7回、153人） ・夏休みこども向け環境講座、「ECOサマーデイ」（14回、281人）等（環境教育参加者数：21,990人）	子ども、大人	環境生活部 地球温暖化対策課
みえこどもエコ活動	小学校、企業、行政が連携してみえこどもエコ活動に取り組むことにより、家庭を巻き込んだ環境保全活動を推進した。 （参加児童数：小学校7校、259人）	小学生、大人	環境生活部 地球温暖化対策課
熊野少年自然の家「サイエンス講座」	実験を通して、科学の楽しさを学んだ。 （実施日：第1回 令和6年6月22日、場所：熊野少年自然の家、参加者数：18人、テーマ「空気と水で科学する」） （実施日：第2回 令和6年9月7日、場所：熊野少年自然の家、参加者数：16人、テーマ「空気と水」「光と音」） （実施日：第3回 令和7年1月25日、場所：熊野少年自然の家、参加者数：17人、テーマ「離れていても働く力」）	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家「そば打ち体験教室」	練る、伸ばす、切るのそば作りを親子で体験した。 （実施日：第1回 令和6年6月16日、場所：熊野少年自然の家、参加者数：35人） （実施日：第2回 令和6年12月8日、場所：熊野少年自然の家、参加者数：36人）	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
熊野少年自然の家「ファミリーキャンプ」	テントの張り方、キャンプ料理等を体験した。 （実施日：第1回 令和6年6月1日～2日、場所：熊野少年自然の家、参加者数：29人） （実施日：第2回 令和7年2月22日～23日、場所：熊野少年自然の家、参加者数：17人）	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター「初心者の方も安心！はじめてのファミリーキャンプ」	子どもと保護者向けのキャンプを行い、テント泊の設営や野外炊事など体験活動を行った。 （実施日：10月19日、場所：鈴鹿青少年センター、参加者数：17人）	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター「体験の風をおこそう」	赤十字や県立高等学校、三重県森林センターなどがブースを展開し、参加者が救命体験やポストカード、勾玉づくりなど様々な体験活動に取り組んだ。 （実施日：10月27日、場所：鈴鹿青少年センター、参加者数：900人）	小学生とその保護者	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課
鈴鹿青少年センター「アウトドアクッキング秋スペシャル」	大自然の中で親子で協力し、栗の混ぜ込みごはんときこのみそ汁づくりに挑戦した。食後はダイセーフオレストパークで、野外レクリエーションを行い、自然に親しんだ。 （実施日：11月23日、場所：鈴鹿青少年センター・ダイセーフオレストパーク、参加者数：13人）	小学生	教育委員会事務局 社会教育・文化財保護課

取組名	取組概要	対象	担当課
森林環境教育・木育の推進	<p>森林教育を通じて森林の持つさまざまな機能や木材利用への理解を深めていただくため、学校等における出前授業の実施や、木や森林を活用した体験を通して子どもが木や森林について楽しみながら学べる「森の学校」の企画・開催、木製玩具の展示「ミエトイ・キャラバン」の開催、森林をフィールドとして子どもたちが主体的に活動するプログラム「ジュニアフォレスター育成講座」の実施、森林教育の指導者養成等に取り組んだ。</p> <p>(出前授業 11回実施、「森の学校」22回開催、「ミエトイ・キャラバン」11回開催、「ジュニアフォレスター育成講座」3日実施、指導者養成講座 5回実施)</p>	子ども(小学生が主)、大人	農林水産部 森林・林業経営課

(4) 子どもの育ちを支える人材育成、環境整備

取組名	取組概要	対象	担当課
預かり保育の推進	私立幼稚園において、地域の実態や保護者のニーズに応じ、正規の教育時間開始前や終了後、および休業日に教育活動を実施するための人件費に対し助成を行った。 (助成私立幼稚園数：18園 令和6年度交付決定数)	学校法人	子ども・福祉部 子どもの育ち支援課
放課後子ども教室の推進	放課後児童対策の一つとして、放課後や週末等に小学校の余裕教室等を活用して活動場所を設け、地域の方々の参画を得て文化、スポーツ、学習活動などの取組を支援し、子どもが地域社会の中で健やかに育まれる居場所を確保した。 (実施地域：17市町、教室数：69教室)	市町	子ども・福祉部 子どもの育ち支援課
保育士に対する研修の実施	新任保育士の資質の向上や就業継続支援を図るための研修、人権問題についての正しい知識を習得するための研修等を実施した。 (新任保育士就業継続研修：163人、人権保育専門講座：24講座612人受講)	保育士等	子ども・福祉部 子どもの育ち支援課
特別保育の促進	市町が実施する延長保育(私立155か所) (R6. 3. 31時点 延長保育等実施状況調査より)、病児保育(21か所) (R7. 3. 31時点) など多様な保育サービスを支援した。	市町	子ども・福祉部 子どもの育ち支援課
保育士等キャリアアップ研修の実施	保育士の処遇改善や資質の向上のため、募集定員を拡大し、インターネットを活用したe-ラーニング形式にてキャリアアップ研修を実施した。 (令和6年度修了者数：2,403人)	保育士等	子ども・福祉部 子どもの育ち支援課
不適切保育再発防止にかかる取組	不適切保育の再発防止や職場環境の改善に向けて、臨床心理士の資格を持つ「保育士支援アドバイザー」による、私立保育所等を対象としたアウトリーチの相談支援を実施した。(17園のべ45回派遣)	保育士等	子ども・福祉部 子どもの育ち支援課
放課後児童健全育成事業の推進	放課後児童対策事業費補助金を支給する等、市町が行う放課後児童クラブ施策を支援した。 (実施地域：29市町、クラブ数：436クラブ)	市町	子ども・福祉部 子どもの育ち支援課
放課後児童支援員認定資格研修の実施	放課後児童支援員として必要な知識や技能の習得等のため、インターネットを活用したe-ラーニング形式にて研修を実施した。 (令和6年度修了者数：264人)	放課後児童支援員として従事しようとする者	子ども・福祉部 子どもの育ち支援課
幼稚園教育研究協議会の開催	教員等の指導力を高め、本県における幼児教育の振興・充実を図るため、県内の国公立幼稚園、認定こども園、保育所、小学校の教員等、市町教育委員会等関係者を対象に、幼稚園の教育課程の編成および実施や保育技術に関する専門的な講義、研究協議を行った。 (参加者数：206人)	幼稚園教諭等	教育委員会事務局 小中学校教育課
三重県児童館連絡協議会事務局運営	県内の36を超える児童館が相互に交流し、活動内容の向上を図るため、次の取組を実施した。 (1) 児童館事業に関する調査研究 (2) 児童の健全育成に関する活動の普及啓発 (3) 会員相互の情報交換 (4) 児童厚生員等職員の研修 (5) 関係機関・関係団体との連絡・提携 (みえこどもの城において、指定管理者事業として実施)	児童館	子ども・福祉部 少子化対策課

取組名	取組概要	対象	担当課
移動児童館等の実施	大型児童館であるみえこどもの城において、子どもたちの健やかな成長、発達、自立を促すために地域で実施する「移動児童館」をはじめ、県内児童館との連携強化、地域のさまざまな団体・個人等との協働による地域の見守りネットワークづくりに取り組んだ。 ・実施回数：103回 (みえこどもの城において、指定管理者事業として実施)	児童館等	子ども・福祉部 少子化対策課
不登校対策事業	スクールカウンセラー（SC）とスクールソーシャルワーカー（SSW）を、全ての教育支援センターに配置し、専門的な支援を行うとともに、不登校支援アドバイザーの助言を得ながら訪問型支援を進めた。 高校段階で不登校や休学、中途退学により学校や社会と関わりが希薄となる子どもたちに学習支援や進路相談等を行うとともに保護者の相談にも対応する県立教育支援センターを運営し、支援を進めた。 また、心の回復力を育むための「レジリエンス教育」、潜在的に支援を要する児童生徒に早期対応するための「スクリーニング」、オンラインの居場所づくりなどの取組を進めた。さらに、フリースクールで行われる体験活動への支援、フリースクールを利用する経済的事実がある世帯への利用料の一部補助、保護者を対象とした相談会の開催など、不登校児童生徒への多様な支援を進めた。 有識者や学校関係者、市町教育支援センターやフリースクールの関係者、臨床心理士、福祉、医療保健部局の関係者等による「不登校児童生徒支援推進検討会」を設置し、これまでの支援策や関係機関との連携のあり方等について協議した。（第1回11月1日、第2回2月6日）	児童生徒、 教員、 保護者、 教育支援センター、 フリースクール	教育委員会事務局 生徒指導課
スクールカウンセラー等活用事業	いじめや暴力行為等の問題行動、不登校や貧困など多様な課題に対応するため、スクールカウンセラー（SC）を全ての公立中学校区と高等学校、特別支援学校、教育支援センターに配置した。また、スクールソーシャルワーカー（SSW）については、全ての教育支援センターおよび拠点となる公立中学校区や高等学校、特別支援学校を中心に活動し、関係機関との連携のもと、課題の解決に向けた支援を進めた。さらに、生徒の日常的な相談に対応するため、教育相談員を一定規模以上の公立中学校と希望する県立学校に配置した。  【SCの配置】150中学校区（小学校302校、中学校149校、義務教育学校1校）、高等学校56校、特別支援学校18校、教育支援センター22箇所 【SSWの配置】67中学校区、高等学校24校、特別支援学校3校、教育支援センター22箇所 【教育相談員の配置】中学校119校、高等学校21校、特別支援学校2校	児童生徒、 教員、 保護者	教育委員会事務局 生徒指導課
みえの親スマイルワークの活用	教育委員会や三重県PTA安全互助会と連携し、親の役割や自身の成長について、気づき、学びあう機会を提供する参加型のプログラムである「みえの親スマイルワーク」を活用し、子育て支援センター、就学時検診等で、子育て中の親を対象にワークショップを開催した。 (実施回数16回、929人参加)	大人	子ども・福祉部 少子化対策課
子育て家庭応援クーポン	子育て家庭応援クーポンを発行し、地域の商店や企業の協賛による、18歳未満の子育て世帯および妊娠中の世帯に対して割引やサービスの提供を働きかけた。 (協賛企業数：2,504店舗)	子ども、 大人	子ども・福祉部 少子化対策課
みえ次世代育成応援ネットワークの活動促進	社会全体で子どもや子育て家庭を支える地域を実現するため、地域の担い手である企業や子育て支援団体等が参画している「みえ次世代育成応援ネットワーク」の活動促進を図った。 (会員数：1,633会員)	大人	子ども・福祉部 少子化対策課

取組名	取組概要	対象	担当課
子どもの育ち支援活動拠点の設置・運営	子どもの育ちを応援する「みえの子ども応援プロジェクト」の活動拠点として、商業施設に「よっかいちステーション」を設置し、毎週火曜日と第4土・日曜日に、企業や団体等がボランティアとして、おもちゃの病院、太鼓体験、工作など、親子がふれあいながら楽しむ機会を提供した。(来場者数 約10,000人)	子ども、大人	子ども・福祉部 少子化対策課
「子どもの居場所」づくりにかかる人材育成	「子どもの居場所」を始めたい方、運営力を強化したい方向けにアドバイザー派遣やインターンシップ研修、勉強会の開催等を行った。 (1)「子どもの居場所」づくり勉強会 全7回、参加者数延べ223人 (2)「子どもの居場所」づくり応援アドバイザー派遣 14件 (3)「子どもの居場所」づくりインターンシップ研修参加者 1人 (4)子どもの居場所を支援したいと考える企業・団体からの申し出を、子どもの居場所へつなぐマッチング 173件成立	大人(民間団体、市町、社協等の職員)	子ども・福祉部 少子化対策課
県生涯学習センター講座	市町行政や関連施設等と連携しながら、地域の課題解決に向けた人材育成講座等を実施した。テーマは市町のニーズに基づき決定した。 ※子どもへの絵本の読み聞かせや紙芝居の演じ方・選び方をテーマにした講座を実施 会場 長島輪中図書館 7月14日 61人 会場 長島輪中図書館 11月17日 58人	大人(読書ボランティア等)	環境生活部 文化振興課
みえ子ども医療ダイヤル(＃8000)	子どもの病気・薬・事故に関することについて、医療関係の専門相談員が電話相談に応じた。 ・相談時間：月曜日から土曜日 19時から翌朝8時まで 日曜日・祝日・年末年始(12月30日から1月3日) 8時から翌朝8時まで(24時間) ・相談件数：13,425件(R6年度実績)	18歳未満の子どもおよびその家族	医療保健部 医療政策課
「女性が働きやすい医療機関」認証制度	子育て時の当直免除など女性の医療従事者が働きやすい環境づくりの促進を目的に、女性が働きやすい勤務環境の改善に積極的に取り組んでいる医療機関を認証しており、広く周知を図った。 令和6年度は、3医療機関の新規認証を行い、認証医療機関は31医療機関となった。	医療機関	医療保健部 医療人材課
いじめ電話相談	子ども、保護者等を対象にいじめ電話相談を実施した。 (相談時間：毎日24時間(365日)) ・いじめに関する相談件数 243件	子ども、保護者等	教育委員会事務局 研修企画・支援課
教育相談	子ども、保護者、教員を対象にプレイセラピーやカウンセリング等の面接相談、電話相談を実施した。 (相談時間：年末年始祝日を除く、月・水・金9時～21時、火・木9時～17時) ・電話相談件数 3,478件 ・面接相談件数 4,431件	子ども、保護者、教員	教育委員会事務局 研修企画・支援課
体罰に関する電話相談	子ども、保護者等を対象に体罰に関する電話相談を実施した。 (相談時間：年末年始祝日を除く、月・水・金9時～21時、火・木9時～17時) ・体罰に関する相談件数 11件	子ども、保護者等	教育委員会事務局 研修企画・支援課
子ども専用相談電話	子どもからの相談に対応する窓口として、子ども専用相談電話「こどもほっとダイヤル」を運営し、悩みを抱えた子どもの声を受け止め、子どもとともに状況や気持ちを整理しながら継続して相談を受け、子どもが自らの力を回復して解決していくことができるよう手助けを行った。虐待やいじめなど子ども自身の力だけでは解決できないような場合には、児童相談所や教育委員会等関係機関と連携して対応した。 ・フリーダイヤル ・相談時間：年末年始を除く毎日13時～21時 ・相談件数：318件(令和6年度)	子ども	子ども・福祉部 少子化対策課

取組名	取組概要	対象	担当課
妊娠レスキューダイヤルの設置	若年層の予期しない妊娠で周囲に相談できない等子どもたちの性の悩みに対する電話およびSNS相談窓口を運営するとともに、医療・保健・教育・福祉等関係機関が連携し早期からサポートすることで児童虐待の未然防止に努めた。  ・相談時間：毎週 月・水 15時～18時、土 9時～12時 （年末年始、祝日を除く） ・相談件数：電話141件、LINE 641件	若年層（10代）	子ども・福祉部 子どもの育ち支援課
思春期保健指導セミナーの開催	中高生の性や予期しない妊娠等、思春期の子どもたちや家族が抱える性に関する問題に関係者が共通理解し、各々の機関で実践に活かす手法を学ぶ目的でセミナーを開催した。 （開催日：2月11日、開催形式：現地開催（オンデマンド配信有） 参加者数：174人（配信視聴：641名）	大人（医療関係者・教育関係者、保健関係者等）	子ども・福祉部 子どもの育ち支援課
給食施設巡回指導	給食を実施している保育所等児童福祉施設、私立幼稚園および学校に栄養指導員が巡回し、管理栄養士、栄養士の配置および適切な栄養管理等の実施について指導助言を行うとともに、食育の視点も捉えた指導を実施した。 ・巡回指導施設数：128施設	施設管理者および給食従事者	医療保健部 健康推進課
若年層の自殺対策推進体制構築事業	子どもの自己肯定感を高めるとともに、ストレスとの付き合い方や問題に遭遇した時、周囲に助けを求めることが大切であることを伝え、また、相談しやすい環境づくりや精神疾患への早期支援に地域の実情に応じて取り組んだ。 ・専門相談窓口の設置 新規相談件数 209件 ・アウトリーチ型支援 55件 ・アドバイザーの派遣 14件 ・教員等を対象とした研修：12回、753人受講 ・生徒を対象とした自殺予防の授業：11回、1423人受講 ・保健医療・教育関係者等を対象とした研修：2回、93人受講 ・関係機関による支援ネットワーク会議への参加助言等：4回	主に中学生・高校生およびその保護者・学校関係者	医療保健部 健康推進課
人権に関わる相談員スキルアップ講座等	県内各機関の相談員等の資質向上を図るため、人権に関わる相談員等スキルアップ講座を開催した。 ・「『あなたはあなたのままでいい』と言える社会を作るために」 ・「困難女性支援法と女性相談支援の現状について」 ・「児童相談所の役割についてー子どもの権利をまもるためにー」 ・「ひきこもりから社会へー再び社会へ飛びたった若者の言葉『もどに戻っただけ 環境がか変わったから』その意味するものとはー」 ・「障がいのある人と家族の人権と尊厳ーコロナ禍での家族の体験を通して考えるー」 （取組数：5講座、参加者数：273人）	大人（人権に関わる相談員）	環境生活部 人権センター
SNSを活用した相談	いじめをはじめとするさまざまな悩みを抱える子どもたちが、安心して学校生活を送ることができるよう、多言語でも相談できるSNSを活用した相談を実施した。 ・開設期間：令和6年4月1日～令和7年3月31日 ・相談時間：年末年始祝日を除く平日17時から22時 （4月、9～11月、1月、3月は土日・祝日も実施 （年末年始を除く）） ・対象者：県内全ての中学生、高校生 ・相談件数：300件	子ども	教育委員会事務局 研修企画・支援課
子どもの心サポート事業	教育相談に関する研修講座を実施し、児童生徒の心の問題に対する理解と適切な支援が行えるよう、教員の資質向上を図った。また、学校における教育相談体制の確立に向けて、中核的リーダーを育成する研修を実施した。 ・教育相談に関する研修講座数：28講座 ・延べ受講者数：863人	子ども、保護者、教員	教育委員会事務局 研修企画・支援課

取組名	取組概要	対象	担当課
生活困窮家庭の子どもの学習支援事業	生活困窮者自立支援法に基づき、県所管地域（多気町を除く郡部）の生活困窮家庭（生活保護受給世帯を含む。）の小中学生を対象に、学習習慣の確立、志望校への進学支援などの学習支援を行った。また、高校生をはじめ、高校を中退した人、中学校卒業後進学していない人（「高校生世代」という。）を対象に、進学、就労に向けた進路選択や再就学等の相談支援等に取り組んだ。 ・支援者数：高校生世代12人（大学等進学者：0人） 中学生23人（高校進学者：10人） 小学生6人	小学生、中学生、高校生世代	子ども・福祉部 地域福祉課
日本語指導の充実	外国人生徒支援専門員、日本語指導アドバイザーを活用し、外国人生徒が社会的自立を果たし、社会の一員として活躍できるよう、課外授業等による学習指導や進路相談を実施した。また、日本語指導が必要な外国人生徒等の学習指導にかかる情報について、調査票を活用して中学校から高等学校へ必要な情報の引継ぎを行う取組を進めた。 ・外国人生徒支援専門員の配置 4人 ・日本語指導アドバイザーの配置 1人 ・調査票を活用した中学校から高等学校への情報の引継ぎ 7市で実施	高校生、教員	教育委員会事務局 高校教育課
多文化共生社会のための外国人児童生徒教育推進事業	散在地域等の小中学校等における日本語教育の質担保および充実を図るため、民間企業と連携してオンラインを活用した日本語教育を実施するとともに、巡回相談員による遠隔支援を実施した。また、各市町が実施する初期日本語指導や適応指導等の取組への支援を行うとともに、小中学校等に巡回相談員を派遣して、日本語指導や適応指導、保護者への支援を行った。	小・中学生、教員	教育委員会事務局 小中学校教育課
教職員研修	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善による授業力向上や教育課題への対応力等の専門性について、経験や職種に応じた研修を実施した。また、言語活動を中心とした授業づくりのための英語指導力向上の研修、1人1台端末等を活用した授業実践を通してICT活用指導力を向上するための研修、学校改善や授業研究、教育相談を推進できる中核的リーダーを育成する研修を実施した。  ・実施講座数 （内訳） 集合研修 412講座 遠隔研修 139講座 集合・遠隔研修 9講座 中止 5講座  ・受講者数 24,010人	教員	教育委員会事務局 研修企画・支援課 研修推進課
個に応じた指導（みえスタディ・チェックのCBT化）	令和6年度みえスタディ・チェックを1人1台端末を活用し、CBT（Computer Based Testing）で実施した。実施後すぐに児童生徒の学習内容の定着状況等を把握し、早い段階からの課題の改善に向けた取組を進めた。	小・中学校教員  小・中学校、特別支援学校の児童生徒	教育委員会事務局 学力向上推進PT
子どもにつまずきに対応したワークシート等の提供	学習内容の定着を図るため、学習指導要領の趣旨や内容に基づき、子どもたちのつまずきに対応したワークシート集「三重の学-Viva!!セット漢字特集号」「三重の学-Viva!!セット第25弾」を県内小・中学校に冊子で提供した。あわせて、小学5年生および中学2年生の1人1台端末にも提供した。 また、小学5年生および中学2年生の児童生徒の1人1台端末に、国語、算数・数学の課題のある基本的な問題（1月15日から3月28日までの平日。毎日1問。5～10分程度でできる問題）を提供した。	小・中学校教員  小・中学校、特別支援学校の児童生徒	教育委員会事務局 学力向上推進PT

取組名	取組概要	対象	担当課
みえ子どもの元 気アップ体力向 上推進事業	子どもたちが運動の楽しさや喜びを知り、運動することが好きになるよう、研修会をとおして指導の工夫や改善を図った。さらに、各園・学校において家庭・地域と連携して、子どもたちが運動する機会を増やしたり、生活習慣の改善や体力の向上に向けた取組が進められたりするよう、取組事例等の共有を行った。  ○就学前教員対象研修会 11月 33人参加 ○小学校教員対象研修会 7・8月 352人参加 ○中学校・高等学校教員対象研修会 10月 138人参加 11月 69人参加	就学前・ 小学校・ 中学校・ 高等学校 の教員、 市町教育 委員会等	教育委員会事務局 保健体育課
元気アップブ ロック別協議会	「令和6年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における三重県の結果から、体力向上の取組の成果と課題について情報を共有し、各学校が次年度の目標や計画を設定する「みえ子どもの元気アップシート」の作成について説明した。また、グループ協議にて、各学校の課題解決に向けた「1学校1運動」や「生活習慣の改善」の取組について協議するとともに、スポーツ庁主催の体力向上に係る研修会の還流報告や、県内小学校の取組事例を共有した。 2月 計 525人参加	小学校・ 中学校・ 高等学校 の教員、 市町教育 委員会等	教育委員会事務局 保健体育課
運動部活動サ ポーター派遣事 業	高等学校の運動部活動に、地域のスポーツ指導者を外部指導者として派遣し、部活動の取組を充実させた。 (県立高等学校31校に対し50人を派遣)	地域のス ポーツ指 導者	教育委員会事務局 保健体育課
部活動指導員配 置促進事業	中学校・高等学校の運動部活動に、教育に対する理解および専門的指導力を備えた地域のスポーツ指導者を、部活動指導員として配置することで、顧問の負担軽減や運動部活動の充実・活性化を図った。 (中学校102校に対し174人を配置、県立高等学校30校に対し42人を配置)	地域のス ポーツ指 導者	教育委員会事務局 保健体育課
令和の日本型学 校体育構築支援 事業(多様な武 道等指導の充実 および支援体制 の強化)	中学校における武道・ダンスの必修化に伴う課題を解決するため、安全に配慮した指導ができるよう、専門性を有する地域の武道・ダンス指導者を外部指導者として中学校に派遣し、保健体育科における武道・ダンス授業の充実を図った。 (中学校18校に対し27人を派遣)	地域のス ポーツ指 導者	教育委員会事務局 保健体育課
子ども読書活動 推進会議	「第四次三重県子ども読書活動推進計画」に基づく県の取組や課題および「第五次三重県子ども読書活動推進計画(仮称)」の策定について、各委員の専門的な知識や実践をもとに読書活動推進のための幅広い意見を聴取するとともに、県の推進計画の進捗状況の定期的な管理と新たな推進施策について提案・検討のための会議を開催した。また、家読普及リーフレットの更新についての意見についても聴取した。 (3回 7月16日、11月19日、2月6日)	三重県子 ども読書 活動推進 会議委員	教育委員会事務局 社会教育・文化財 保護課
地域学校協働活 動推進のための コーディネー ター養成講座	地域学校協働本部関係者、コミュニティ・スクール関係者、教員等を対象に地域が学校と連携・協働して地域を創生する「地域・学校協働活動」の中核を担う地域学校協働活動推進のためのコーディネーターの育成を図るため養成講座を実施した。 (4年間で8回計画：本年4年次、8月8日、11月8日：延べ参加者数106人)	地域学校 協働本部 関係者、 コミュニ ティ・ス クール関 係者、教 員等	教育委員会事務局 社会教育・文化財 保護課
フォローアップ 講座	コーディネーター養成講座認定者(みえ地域コーディネーター)および講座受講者のさらなる学びの場とネットワークづくりのため、実践発表等を通じて当該地域の課題に気づく場を設けるとともに、各地域の課題を明らかにし、受講者同士で考え、解決の道筋を学ぶ場を開催した。(2月7日：参加者数30人)	地域学校 協働活動 推進のた めのコー ディネー ター養成 講座の認 定者	教育委員会事務局 社会教育・文化財 保護課

取組名	取組概要	対象	担当課
少年相談110番	少年や保護者等から家庭問題、交友問題、学校問題、犯罪被害等の悩みや困り事の相談に応じ、必要な指導・助言を行った。 ・フリーダイヤル ・相談時間：祝祭日、年末年始を除く月から金曜日9時から17時 (相談件数：34件)	子ども、保護者、教員等	警察本部 少年課
「三重県版コンネクションズ」による非行少年の立ち直り支援等	家庭、学校、交友等の周囲の環境や自身に問題を抱えた少年や保護者に対する面接・電話等による支援のほか、少年警察協助手員、大学生ボランティア等の少年警察ボランティアや関係機関・団体等と連携した農業体験やスポーツ体験等の居場所づくり活動による立ち直り支援に少年サポートセンターが中心となって取り組んだ。 (支援対象少年：106人、支援回数：1,982回)	非行少年等、被害少年	警察本部 少年課
インターネット上の違法・有害情報から少年を守る対策	インターネット利用に起因する児童の犯罪被害を防止するため、携帯電話販売店に対し、スマートフォン等販売時に使用者が子どもである場合には保護者に対するフィルタリングの説明・推奨等を徹底するよう要請した。 (携帯電話販売店：延べ32店舗) ※令和6年1月～12月  非行防止教室等を通じ、児童・生徒、保護者等に対してインターネット利用に潜む危険性やフィルタリングの必要性、家庭でのルールづくり等の啓発を実施した。 (インターネットにかかる非行防止教室実施回数：延べ205回、参加者数：延べ29,799人)	携帯電話事業者、小学生～高校生、専門学校生、保護者および教員	警察本部 少年課
インターネットの安全で安心な利用の推進	年3回(8月下旬～9月・11月・1月)、児童生徒に関わるインターネット上の問題のある書き込みを検索するネットパトロールを実施した。検知された問題のある書き込みについては、当該校と共有して対応した。 小中学校等生徒指導担当者講習会において、「インターネットに関する問題への対応について」と題して研修を行うとともに、「情報モラル教育に関する出前授業・研修会を行っている関係機関一覧」を作成し、公立学校へ配布した。 いじめ防止動画コンテスト参加者への研修会で、「情報モラル授業」を実施した。 インターネットの危険性に関する情報や、トラブルから子どもたちを守る方法等がまとめられたサイトを整理した、保護者向け啓発チラシ「インターネットを安全に利用しましょう」を作成し、公立学校に配布した。	児童生徒、教員、保護者	教育委員会事務局 生徒指導課
「非行防止・薬物乱用防止教室」の開催	少年の規範意識を向上させるため、保育所、幼稚園、小学校、中学校、高等学校等を訪問し、非行防止教室や薬物乱用防止教室を開催した。 (実施回数：延べ477回、参加者数：延べ53,771人)	幼児～高校生、大学生、専門学校生、保護者および教員	警察本部 少年課
学校薬剤師による薬物乱用防止教室「くすりの正しい使い方教室」	覚醒剤や大麻等の違法薬物の乱用だけでなく、医薬品を医療目的から逸脱した用量や用法等で使用することも薬物乱用であるため、薬局等で購入できる一般用医薬品等の服用方法や副作用等、くすりの正しい使い方について、薬物乱用防止教育の一環として、学校薬剤師による薬物乱用防止教室を実施した。 (実施校数：197校)	小学生(高学年)～高校生	医療保健部 薬務課
薬物乱用防止教育認定講師等による薬物乱用防止教室「ダメ。ゼッタイ教室」	ライオンズクラブ国際協会334-B地区と公益財団法人麻薬・覚せい剤乱用防止センターが共同で認定した薬物乱用防止教育認定講師等が薬物乱用防止教室を実施した。 啓発用ビデオやCD-ROMを活用した薬物乱用防止教育を行うとともに、地域のおじさんやおばさんとして、また、人生の豊富な経験を生かし「語り部」として、生き方「ライフスキル」を小中高生に伝えた。 (実施校数：127校)	小学生～高校生	医療保健部 薬務課

取組名	取組概要	対象	担当課
青少年健全育成協力店運動	「三重県青少年健全育成条例」に基づき、関係機関と連携して子どもを有害環境から保護する取組を進めるとともに、立入調査を実施した。 立入調査実施件数 1,977件 (子どもの利用の多い店舗のうち青少年健全育成協力店の割合：99.2%) (令和7年3月末時点)	大人	子ども・福祉部 少子化対策課
子ども農山漁村ふるさと体験推進事業	農山漁村でのふるさと体験活動を通じて、小学生から大学生の学ぶ意欲や自立心を育み、その力強い成長を支えるため、体験指導者の育成などによる受け入れ地域の体制強化を図った。 (受入地域15地区)	農山漁村地域の大人	農林水産部 農山漁村づくり課
防犯ボランティア団体等との連携による子ども見守り活動等の推進	「防犯ボランティア団体物品支援事業」により、防犯ボランティア団体に対して防犯活動用物品の配布等の支援を行った。また、政府において策定された「登下校防犯プラン」に基づき、事業所等が通学路等において、平素の活動を通じて子どもの見守りを行う「ながら見守り」の実施を働きかけたほか、三重県警察認定「子ども安全・安心の店」の拡充など、子どもの安全を確保する活動の活性化を図った。 (防犯ボランティア団体物品支援事業対象団体数：18 団体、子ども安全・安心の店認定数：1,434事業所)	防犯ボランティア団体のほか、ボランティア活動に従事する事業所等	警察本部 生活安全企画課
「交通安全アドバイザー」の派遣による交通安全教育の推進	「交通安全アドバイザー」により、保護者等に対してシートベルト・チャイルドシートの装着に関する指導を行うなど、参加・体験・実践型の交通安全教育を推進した。 (38回、保護者：913人)	幼児の保護者および教員	警察本部 交通企画課
働きやすい職場づくり事業	誰もが働きやすい職場づくりを目的に、残業時間の削減や休暇の取得促進、育児や介護をしながら働き続けられる職場づくりなどに積極的に取り組む企業等を登録するとともに、特に優れた実績を有する企業等を表彰し、併せて優れた取組事例を広く紹介した。(令和6年度登録数：169社、表彰：6社、表彰式：2月20日開催) 加えて登録した中小企業等に対しては、取組を後押しする奨励金制度を創設し、取組実績に応じて支給を行った。また、休みやすい職場づくりに特化したセミナーやアドバイザー派遣を実施し、取組成果共有会を開催(「働き方改革取組発信事業」の取組成果共有会と合同開催)した。	企業等	雇用経済部 雇用対策課
働き方改革取組発信事業	働き方を見直し、企業におけるワーク・ライフ・バランスを促進するため、セミナーの開催や優良事例の紹介などによる普及・啓発を行った。 【セミナー等の開催】 ○働きやすい職場づくりセミナー 7月17日(会場およびオンライン開催)39人参加 11月14日(会場およびオンライン開催)21人参加 ○働き方改革取組中間成果共有会 11月7日・8日(会場およびオンライン開催) 参加企業6人、アドバイザー5人、 オブザーバー参加企業3人参加 ○取組成果共有会およびセミナー 2月6日(会場およびオンライン開催)94人参加	企業等	雇用経済部 雇用対策課
教員のための博物館の日2024	教育委員会、美術館と連携しながら、教員に博物館に親しんでいただくとともに、貸出教材や出張講座など博物館の資料や活動を、授業で活用できる学習資源として知ってもらうことを目的に実施した。 (開催日：8月23日、参加者数：38人) ・開催内容 ①博物館概要説明、博物館活用事例紹介 ②アウトリーチ活動紹介 ③美術館の教育プログラム紹介と講座体験 ④常設展・企画展見学	大人(教員)	環境生活部 総合博物館

取組名	取組概要	対象	担当課
ヤングケアラー支援事業	<p>ヤングケアラー・コーディネーターを配置し、子ども向けリーフレットを作成するなどの啓発活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係職員普及研修（9月・11月、193人参加）、実践研修（12月～3月、グループワーク、5回、174人参加）の開催</li> <li>・支援者向けハンドブックを用いた出前講座の実施（10回、265人参加）</li> </ul>	市町職員、教員、民生委員・児童委員、NPO団体	子ども・福祉部 家庭福祉・施設整備課